
秋の味覚

bunz0u

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋の味覚

【Nコード】

N8705I

【作者名】

bunzou

【あらすじ】

アレ気な女子大生、大杉涼音（19）が意味もなく騒ぐ話

（前書き）

作者のストレス解消です

大杉涼音（１９）にとって、秋の味覚は何ものにも替えがたいものだ。特に梨。梨のためなら鳥取県の独立を認めてもいいというくらい、２０世紀梨が好物だ。という熱弁を友人にふるっていた。

「このポケナスが！ 梨は２０世紀に決まってるってーの！」

「いやほら、涼音、好みっていうのは人それぞれだしさ」

「甘い、スイート、スイーツ！」涼音はものすごい勢いで手を顔の前で振った。「今問題にしているのはあたしの好み。あんたやその他の人間などはどうでもいい！」

「あー、ははあ」

だったらなんでしゃべってんだよ、という声は出さずに友人はなんとなく愛想笑いを浮かべた。

「そもそも最近は甘い果物がチャホヤされすぎてる！ 甘ければいいってもんじゃないでしょーが！ そんなに甘いのが好きなら砂糖でも貪り食ってればいいんだって！ このスイーツ！ スイーツ！ スイーツどもが！」

「あはは」

もはや何も言えないという表情で友人はかわいた笑い声を出した。しかし、そこにハイテンションな山男が出現して、椅子に勢いよく座った。

「そうだよ涼音ちゃん！ 君は正しい、まったく正しい！ 最近の果物は甘すぎるのだ！」

「はあ？ あんたはむさすぎるからさ、消えて」
「ぐっ！」

山男は胸を押さえて苦しそうにした。

「それだよ、そのビターなところが君は一味違うのさ！ うげ！」
山男の額には涼音のボールペンが突き刺さっていた。ドン引きの友人を無視して、山男はボールペンを額に立てながら、満面の笑顔

であつた。

「ビターなのは君のその態度さベイバー」

涼音は無言でボールペンをさらに押し込んだ。

「うごぎやぎやがぎやがが」

山男はもたえ苦しんで椅子から転げ落ちた。友人はそれを見て不安そうな不安そうな顔をした。

「えー、と。いいのそんなことして？」

涼音は特に気にする様子もなく、気楽な感じで立ち上がった。

「いいのいいの。それより甘党どもが集まるケーキバイキングに行かない？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8705i/>

秋の味覚

2010年12月13日16時21分発行